

進路指導室へようこそ2

前橋女子高校進路指導部

令和6年度 MJ 進路通信 第5号

令和6年4月24日(水)発行

■各学年集会で話したこと

この2週間の間に、それぞれの学年の集会にお邪魔させていただき、前女での学習や MJ キャリアプラスについて話をさせていただきました。1年間の生活にあたり、是非心に留めてほしい話をしたつもりです。ご家庭での話題として共有してほしい情報もありますので、それぞれの学年で話した概要についてまとめてみました。

1 学年 (進路指導主事講話)

・進路指導部の仕事は？

学年団と協力して、皆さんの進路実現のサポートを、特に学習面や情報面で行う仕事
進路指導室に来てみよう・・・進路指導室は進路情報の宝庫です

・前女での学習について

「高校の勉強は、難しい？」

もちろん中学校の比ではない。けど、新しいことを知る面白さも中学校の比ではない。「面白さ」を知るにはそれなりの苦労や努力が必要だが、もしかしたら自分の将来の仕事を決めるような出会いもあるかもしれない。

「赤点とったら、どうしよう！」

過剰に心配する必要はない。大切なのは

「簡単に授業を休まない」「授業を真剣に受ける(寝ない)」「分からなかったら聞く」

この3つが実践できれば、成績に関しては心配するような状況にはなりません。

「人間としての器を大きく」

勉強だけでなく、部活や行事、委員会などいろんなことに取り組むことで、人としての器を大きくする。器を大きくしてからでないと、いくら知識を詰め込んでもすぐにいっぱいになってしまう。

・こんなこと、心配じゃない？

①周りの人が皆頭よさそうに見える・・・人と比べる必要はありません。「みんなちがって、みんないい」

②宿題がたくさん出るの？・・・完璧に仕上げようとしてはいけません

③部活をやると、勉強に支障が出る？・・・むしろ逆です。部活はやったほうがいい。

部活のメリットは「集中力を鍛えることができる」「計画性を身につけることができる」「先輩との交流を通じていろいろな情報を得ることができる」こと。この経験は受験期に必ず役に立ちます。目先の不安や周囲からの脅かし(?)を真に受けてはいけません。

④塾に行った方がいいの？・・・まずは前女の生活や授業に慣れることが優先です

塾に行こうかまだ迷っている人は慌てて決める必要はない。まず前女の生活をしっかり過ごしてみて、「塾に通う時間的余裕があるか」と「本当に自分に向いている塾なのか」を見極める時間が必要(おススメできない塾も結構ある)。一番の失敗例は、学校の勉強と塾の膨大な課題に挟まれてどちらも消化不良になってしまうこと。そうになると、塾に行くことがかえって大きなマイナスになる。



2 学年 (キャリアプラス説明会)

・新しい出会い・・・過去をリセットして、新しい自分を見てもらうチャンス

・2年生は、「大きな変化(≒飛躍)」の1年

3年間で一番「変化」を自覚すべき時期。自覚と準備が早いほど目標実現の可能性は高まる

・いつ、「受験生」になるのか？何をすれば「受験生」になったといえるのか？

「自分の目標をしっかり見定め、今までいい加減に取り組んできたことをきちんと計画的に取り組むことができるようになった状態」

・・・決断を先延ばしにせずアンテナを高く張ってさまざまな学びに向き合ってほしい

- ・MJ キャリアプラスの活動をどう活かすか
 - 「IQ<EQ」の時代・・・獲得した知識の量で評価される時代ではなくなった
 - 主体的に学びに向き合い、そこでどんなふうに心を揺さぶられたかが評価されるようになった
 - 「志願理由書に書く材料がありません」・・・SS レクチャー、資格試験、科学的探究
 - 前女にはそのための材料がたくさん落ちています
 - 「OG の先輩を活用しよう」・・・TEAM-OG（前女でしか成立しないプロジェクト）

3学年（キャリアプラス説明会）

- ・君たちは今、何のために勉強するのか？・・・「なりたい自分になるため」（それだけでは不十分）
 - 動機づけのベクトルが自分にしか向いていない
- ・ベクトルが自分にしか向いていないと、受験を意識したときに視野が狭くなることもある
 - 例：「〇〇大学より下の大学には行きたくありません」（偏差値や学力だけで判断しがちになる）
 - 例：「自分の考えと異なるアドバイスは聞きたくありません」「受験に関係ない科目は勉強したくありません」（自分のことにしか意識が向いていないときに出がちな言動）
- ・外向きの動機付けのベクトルも必要・・・「なりたい自分になって、将来社会にどう貢献するか？」
 - 「受験で使わない科目を勉強しない」ことが何故ダメなのかの答えがそこにある
 - 「現代社会が抱える問題を解決するヒントは、自分の専門とは一見無関係な世界に落ちていることが多い」
 - 「複雑化した現代社会の問題（紛争や環境問題）は、複数の知識やアイデアを組みわせないと解決できない」
- ・入試問題も、社会の要請を受けて変化してきている
 - 単なる知識を問う問題は減少、代わりに総合問題や小論文など「いろいろなことを考える」人材を選抜しようとしている。狭い世界でしか物事を考えられない人は、大学に入っても伸びない。入試においても、一見無関係な教科の知識が大きなヒントになることもたくさんある。
 - 多様な学びのなかから、問題解決のヒントを拾える人材を、大学は求めている。
- ・受験生は、偉くなった訳ではない
 - 自分の目標実現のために、勉強に専念する時間を与えていただいているだけ（働いてもいないのに飯が食える）。
 - 受験期は、「自分の夢があって、自分の夢のために勉強ができて、周囲が無条件に自分の事を応援してくれる」ととても幸せな期間。だからこそ、受験が終わったら、社会や家族に恩返しをする、という目線は絶対に必要。
- ・視野が狭くなると、よりよい選択肢に気付けなくなる
 - 「学校休んで、塾に来い」・・・「本当にそれでいいのかな」と迷いながら勉強して、うまくいくはずがない。
 - 受験生の腕の引っ張り合いに加担して、結果葛藤することになる受験生の気持ちを想像できない大人もいる。
 - そんなときに、自分の行動の指針として、内向きと外向きの両方の目線をもっておくことが大切。

■TEAM-OG2期生レポート「大学って、こんなところだった！」第2弾

長崎大学1年 Sさん

新1年生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新2、3年生の皆さん、ご進級おめでとうございます。そろそろ新生活に慣れつつある頃でしょうか。私の話が皆さんのモチベーションに少しでもつながれば嬉しく思います。

私は現在長崎大学歯学部に通っています。長崎大学の歯学部には浪人生や大学に入り直した人など様々な年齢層の人が在籍していて、みんなで団結しながら課題をしたり、勉強したりしています。さらに、東京都、新潟県、静岡県、大阪府、奈良県、岡山県、徳島県、山口県、沖縄県などいろいろなところからみんな来ていて、少し話すだけでもとても面白いと感じています。

大学の授業についてですが、すぐに専門科目の授業が始まり、現在は骨学を勉強しています。歯学部というと歯のことだけを勉強するだけのように思う人も多いのではないのでしょうか。実は体全体のことも深く勉強します。その他にも教養科目の授業があり、第二外国語などを様々な学部の人と一緒に授業を受けています。

私も6年間、勉強を頑張り続けたいと思います。ぜひ皆さんも夢に向かって頑張ってください。遠方の受験を考えている人や歯学部に興味を持っている人は連絡をください。少しでも力になればと思います。応援しています。